

令和2年度 泉佐野丘陵地緑地 運営審議会
中地区検討部会（第1回）

日時：令和2年10月12日（月）15:00～17:00

場所：泉佐野丘陵地 パークセンター

◆出席者（敬称略）

増田委員長 前中委員 武田委員

久住委員 小門委員 那須委員

◆概要

1. 「また来たくなる」公園づくりについて
 - ・現状報告
 - ・今後の進め方

2. ルート検討委員会での検討内容について
 - ・現状報告

1 「また来たくなる」公園づくりについて

■ 掲示板について

- ・白地図を読める人は意外と少ないので、園路や広場の名称がわかる地図を使うといいだろう。
- ・利用者が参加したくなる仕掛けが必要である。カードに書き込むのは敷居が高いので、貼るだけでも参加できる方法などがあるかもしれない。
- ・掲示板に、例えば「ここで鳥の鳴き声を聞くことができる」と掲示した場合、その古くなった情報を回収する方法も必要かもしれない。
- ・例えば、パーククラブが活動している場所と内容も掲示できるとよい。コトを売りにしている公園なので重要な情報である。パークセンター内はもちろん、入り口でも掲示されているといい。修正が難しいものではなく、書き込みと削除が自由にできるほうがいい。またデジタルサイネージにして、パワーポイントを表示するという方法もある。
- ・掲示板についてはメンテナンスが課題になるので、パーククラブと大阪府が協力して取り組める形を検討してほしい。

→ パークセンターの掲示板については、パーククラブの活動内容の掲示についてはパーククラブが責任をもって更新するが、その他の情報の更新については大阪府と相談したい。(パーククラブ)

パークセンターの掲示板については、パーククラブと適切な役割分担を協議したい。(事務局)

- ・パーククラブ活動内容を書き込む必要のあるフォーマットだと、負担が大きくて続かない可能性がある。マグネットだけで完結できるよう工夫するなど、ツールを検討してもいいだろう。
- ・「また来たくなる」には体験が印象に残ることが大切であり、その一つの方法としてのコミュニケーションである。掲示板についても手作りで、試行錯誤を重ねて出来上がっていく様子をお客さんと共有することもコミュニケーションである。

- ・泉南地域の人がたくさん集まる行事などに公園が外向いて宣伝することも大切である。パネル展示だけでは意味がなく、その場で体験できるプログラムを実施すると効果的である。
- ・なんばパークスでは、植栽管理を担当するスタッフに対して、植物に興味を示しているお客さんがいたら積極的に話しかけるよう教育している。

→ 観光協会にも所属しているパーククラブメンバーから、ラジオの出演に誘ってもらい、大阪府職員と一緒に出演させてもらったことがある。(事務局)

- ・活動に取り組んでいる当事者が伝えることが最も効果的である。堺自然ふれあいの森でも、指定管理者だけでなく出演するのではなく、いっちゃんクラブも必ず同席するようにしている。

■植栽について

- ・紅葉の植樹については、いきなり植えるのではなく、妥当性を検討した上で取り組むこと。例えば餅つつじは平地ではなく斜面が適している。そのように適正を検討した上で植える必要がある。
- ・クローバー広場については、最初からクローバーと決め込まずに、クローバーに焦点を当てながらも色んな植物を見てから、広場の名前も決めていくといい。
- ・モチツツジは、背が高くなって花が少ししか咲かない場合は、1.5mほどの高さになるよう少し切り落とすとよい。
- ・紅葉＝カエデではない。樹木の紅葉にこだわる必要はない。
- ・アオモジなどもきれいである。またこの公園にはヤマツツジはないか。ヤマツツジもきれいである。
- ・アカマツ林があったような林相なので、ツツジ類は種類が限られているかもしれない。
- ・中地区は棚田跡地がほとんどであり、それらが竹林化している。粘土質であり、切った後も竹の問題はつきまとう。畦のところに木が植わっており、真ん中は竹が生えている。これは、他でも同じなのか。
- ・昔は農地の境界に境界木が植えられていた。その名残かもしれない。畦に木が生えているからといって、農地の部分にも木が生えるとは限らない。
- ・10周年の記念として、パークセンター前のロータリー部分にシンボルツリーとして山桜を植えてはどうかと提案した。しかし大阪府からは、それは難しいと返答されている。管理面の問題もあるそうだが、他に何が問題なのかを知りたい。パーククラブメンバーでもある樹木医によると、土壌の問題ではないかと言っていた。
 - あのロータリーは泉佐野市の道路でもあるので、あえてそこに植えなくても、公園内に植えればいいのかという意見があった。(事務局)
- ・買って来た木を植えるのではなくて、園内にある苗木をいくつか、枯れることも覚悟の上で植えるという手段はいいかもしれない。ただ管理は大変である。
- ・泉佐野市の道路なので、交通障害にならないような植栽を検討する必要がある。

2 ルート検討委員会での検討内容について

- ・ ルートを検討する際は、例えば子どもや高齢の方が歩くことができるルートなど、対象に合わせて情報を載せるとよいだろう。坂道や階段がある場所などはわかるといい。
 - パーククラブでは頻繁に園内ガイドを行う余力がないので、今回もパーククラブが園内ガイドをすることは視野に入れていない。今回作っているルート案内図は、来園者が自分で案内図を見ながら歩くことを前提としている。(パーククラブ)
- ・ 実際にガイドを行う際は、歩きながらではなく、特定のスポットに立ち止まって説明することになる。ルート案内図についても同じであり、見どころポイントや解説ポイントが組み込まれているとよい。
- ・ 園路の名前だけでなく広場の名前もあるといい。
- ・ ルート案内をプログラムとして扱うことを目的とする場合と、利用者が自分で案内図を使って歩くことを目的とする場合で、案内図の形態が大きく異なる。
- ・ 望みの丘の園路の距離はどれくらいで、その中には平地や斜面がどこにあるのかといった具体的な情報が基礎情報として載っているといい。ユニバーサル対応とは情報提供することが大切であり、物理的に全てユニバーサル対応しなければならない、ということではない。
- ・ 今回は利用者が自分で歩くためのルート案内図だが、リピーターを増やしたいという趣旨を踏まえると、誰かと一緒に歩いて回ったという体験の方が間違いなく印象に残る。将来的にはガイドもできるようにするために、その材料として案内図も作られるといい。
- ・ 利用者はパークセンターから歩き始めることが多いと思うので、パークセンターがスタート地点になっている方が、利用者に対しては親切である。
 - 今は、公園に来た人が、どこを歩けばいいのかわからない、これくらいの時間ならどれくらい歩けるのか、といったことがわからない状況である。ルート検討委員会としてはまずそこを解決したいと思っている。(パーククラブ)

3 その他

- ・ 女性参加者で公園の魅力はどうやって広報すればいいか、といった話もしている。例えば紙芝居やパネルを作って、公園の四季や美しい草花を伝えることはできないか、
 - ・ 実際に紙芝居をやってみようとか、何か目標も生まれるとよい。
 - ・ これをきっかけに、広報チームなど、新しいチームが生まれるといい。
- 以上